

第4回佐賀市在住外国人懇話会 議事録

【日時】 令和4年10月18日(火) 14:00~15:00

【場所】 佐賀市役所 2階 庁議室

【出席委員】 会長 寺本憲功、副会長 黒岩春地、委員 韓冬梅、土井清美、米倉一成、
リー・ジンイェン、執行偉男、水田充彦

【事務局】 副市長 池田一善、総務部長 坂井元、国際課長 馬郡裕子、
国際課副課長 井手野修万、国際課主査 江崎勇史、同課主事 宮副千代子、
同課国際交流員 ステファニー・マクウイリアムズ、佐賀市国際交流協会 馬場三佳

○事務局（開会）

○副市長（挨拶）

○会長（会長挨拶）

（議事）

○事務局（資料説明）

○委員 取りまとめいただきましてありがとうございました。

非常に今までの議論をまとめていただいて、実施予定も記載していただいたので、イメージもしやすく、わかりやすく御説明を拝聴させていただきました。

実際この1年間、特に4月からですけど、佐賀ランゲージセンターのほうで、学生がちょうど、今100名ぐらいになりました。

4月1日時点では0名だったので、私もどんな困り事が出てくるのか、まさにこの会と一緒に、課題を探して行ったのですけれども、おおむね学生さんは、何かすごい困り事に直面して、ひやひや過ごしているっていうよりは、随分と佐賀の生活に慣れて、アルバイトも出来、時々病気になって、病院に行ったりとか、あとはこの前の台風のときには、少し怯えたりとか、いろいろな多少の混乱もありましたけども、ありがたいことに、皆さんのおかげで、佐賀でうちの留学生が楽しく、過ごしているようです。

そうした中で私も、学生から何に困っているというのを日常的に聞きながら、そうしたことを、ここで発言できる場があったっていうのは、とてもいいことだと思っておりました。

恐らく、こういった課題整理っていうのは、今の課題とあと半年後でまた別の課題が出てくると思うので、こういったものの継続してやっていきたいなと思っております。

それから、特にまとまりもないのは、マイクを持ってしまったのですけれども、感じますのは、やはり円安です。

円安で、この日本での将来ビジョンが、狂ってしまったっていうような学生もいますし、実際にキャリアバンクと一緒に働いている外国人の社員も、中国人社員とか裕福なので、いまだに30歳になって、親からまた仕送りもらっているというような社員もいるのですが、ベトナム人の社員でいくと、技能実習生ではないのですけれども、親に仕送りしていたんだとかですね、そういった、様々な環境の外国人が居て、そういった外国人からすると半年ぐらいで、給与が3割減ぐらいになっておりますし、10年位のスパンで見ますと、10年まで、たしか円高79円ぐらいだ

ったので、ずっとこの国に支援をし続けていたってという外国人社員にとっては、今はつらい環境なんだろうなと思っております。

また、理事長をはじめ、一緒に御支援させていただいているウクライナの問題についても、今の私のほうで直面しているのが、私の直属の部下がロシア人なんです。

非常に肩身の狭い生活を、今日本でしているんだなっていうのと、あとは動員令がロシアに出ているので、今その後、うちのロシア人社員のお父さん 60 歳ぐらいなので、さすがに関係ないでしょうと思っていたら、あそこは対象にはなってくるようで、何とかこの日本に来られないだろうか、あとは妹さんの旦那さんが国外に出られないだろうか、とか、そういった本当に、この半年、1 年っていうのは外国人を取り巻く環境で円安、国の入国規制が緩和になったあとはウクライナの問題が出たとか、激動しているので、どういった形で、この佐賀に住んでいる外国人に影響してくるかわからないのですが、まとめますと、こういった場で、今の課題を整理していくのはとても大切なんだなというふうに感じました。すみません、長々と。

○事務局 ありがとうございます。

国際情勢の問題と、日々、対応が変わってくるという御意見でございました。

私も、この多文化共生のこの事業は、実は平成 27 年に 1 回、取組ました。

それから、いろいろありまして、また再度取り組んだわけでございますけれども、ちょうど 5 年ぶりに、ここが改正をしたということだろうかと思えます。

先ほど水田委員御紹介ございましたように、国際情勢の変動であるとか、多文化共生がどんどん進んでいくところは、たぶん新たな問題なんかも出てくるだろうというふうに思っております。そういうことに対しましては、都度、改善をしていきたいと思っておりますけれども、これがまとまって皆様方から、開催して御意見もお伺いするという事は、今後も一定期間ずつ、見直しを進めながらやっていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○会長 どうもありがとうございます。いかがでしょうか。

他の委員せっかくの機会でございますので○○委員、何かございますか。

○委員 久保泉のほうで、国際交流の場所として、久保泉公民館を利用して、今後やっていく計画があるということで、それを早めにやっていただければと思いますけれども、久保泉は技能実習生がほとんどです。それで技能実習生は、みんな揃って自転車でよく佐賀に買物に来ております。眞島製作所さんっていうところは、自転車を、自分とこの外国人には、黄色を統一して支給しておられます。眞島製作所さん、黄色の自転車で、佐賀のほうに下って行っていたら、眞島製作所さんの従業員だなと、わかるわけです。

まだほかにも、企業さんありますけど、ほかのところは、自転車でもいろいろばらばらで、企業さんでよかったらそういうことは自転車を統一してもらおうと、社員さんだな、とかわかりやすいものですから、そういうふうなことをしてもらおうと地域の人も、親しみを感じて、言葉かけやすくなってくると思うのですよね。

まだ今のところ、自転車は眞島製作所さんだけがそういう黄色で統一していると。

そういうところですので、ほかのところもそのような統一をしてもらったら非常に助かるなと。

それと、早く、そういう人たちと地域との交流の場を早くつくって、地域の人が、早く交流した

ほうがいいと思います。そうしないと、久保泉もいろいろ行事をやっておりますが、

これまで延期になってしまっておりますけども、やっぱりそういう行事に大いに参加してもらったら、もっともっと親しみが沸いて、協力できると思われま。

それと、久保泉は、ごみステーションは全て、清掃センターに頼んで、外国語で表示しております。大体、外国人がいる地域には、そういうことで、ごみの問題はちょっと出てきておりません。地域として、そういうことで、外国語の表示というのは非常に良いのではないかと思います。ぜひ、我々そのものが、もっと外国人に親しみを持って接するようなことをしていかないと、外国人のほうから日本人に接してこいというのは無理だと思いますから、我々のほうから外国人に接するような機会を大いにつくっていくべきだなと思っております。以上です。

○会長 どうもありがとうございます。いかがでしょうか

○委員 先ほど執行委員からお話がありました眞島製作所というお話出ましたけど、そこを管理しているのは私どもです。

今のお話聞いていて、久保泉でほか 2 社ほどありますんで、うちの久保泉地区だけでも 3 社あるので、黄色以外にも、また自転車っていうのは、これから先の中では、ちょっと考えて企業さんのほうにもそういう提案をしていきたいなとは思っています。

先ほど、ちょっと執行委員からもお話がありましたように、私どもは技能実習生の監理団体として、とにかく日本語とせっかく日本にいる中で少しずつ着実に日本語は上手になってほしいっていうふうなことを、常々本人たちに、実習生たちには話しているわけなんです。

そういう機会の中では周りの、地域の方との交流というところの部分は意外と非常に大きく、ウェイトとしては、高いのじゃないかな、と思います。

実習生の中でも、コロナで若干 250 名ちょっと下回りましたが、技能実習生の中でも、はっきり日本語の検定試験を受けて、もう少しずつ自分で勉強したいっていう人は、そういう人は、言われなくても自発的にすると思うのです。

ですから、お話聞いた中では、とにかく今日今回、いろんな実施時期を 5 段階に分けていただきましたけど、そういう中では地域とのかかわりを、特に私どももこれから先も、積極的に技能実習生には進めていきたいというふうに考えております。以上です。

○会長 どうもありがとうございます。貴重な御意見ありがとうございます。

○委員（挙手）

○会長 お願いいたします。

○委員 このように懇話会を開いていただき、本当にありがとうございます。

私自身自身の話をすれば、私は 19 歳で留学生として佐賀大学に留学して、今年から日本にいる時間が、中国に居る時間よりかなり長くなっております。

今振り返って見たら、私は出身が旧満州、吉林省ということもありまして、中学校から日本語勉強しておりまして、佐賀大学に留学した頃は、自分の中では困ったことが余りなかったっていうのが正直なところでありました。

今だって、今自分で仕事をして 10 年以上になっており、たくさんの留学生たちを雇ったりしておりますけど、考えてみたら留学者たちも困ったことが非常に多いですね。

私自身は中国の朝鮮民族なので、中国語と韓国語が両方できるっていうことで、今韓国人スタ

ツフ、中国人スタッフを雇っているのですが、日頃生活の中でどんな悩みを抱えて、どうすればいいんですか、身近に私とかいるから、いいのですが、本当にこの人たちが佐賀で、気持ちよく快適に生活していくためには、こうやって行政と力を合わせながら、また行政の力も借りながら、みんなが住みやすい佐賀のまちをつくるのが非常に大切で、この機会がよかったなと思っております。

一つでも私たちが提出した意見が、市のほうにもつながりが出来て、必ずより良く生活できるような、佐賀市になればいいなって思うのは私の正直な感想です。

また、個人的な話を少しさせていただきますけど、私は人材派遣の仕事をしておりまして、佐賀県からの依頼を受けて、佐賀空港に国際便が来るときに、2012年から派遣をしており、コロナが始まって2020年の2月15日が、中国からの上海便が最終便となっております。

それからもちろん、外国からのつながりがなく、仕事面で大変苦労しておりましたが、今これが少し解除になりまして、実は、先週の火曜日から韓国からの企業さんがかなり、佐賀県に来ております。

先週の火曜日から今日も午前中までスタッフとか私たち6人で今いろんな企業様に通訳行っていますが、企業さんたちも何年ぶりに2年ぶりにこんな笑顔が出たと思うし、海外から来たお客さんたちも喜んでおりました。

午前中ちょっと通訳早めに終わったので、お土産さんに行ったら、外国人が戻って来てくれて良かった、という声聞いたので、私自身も非常にありがたく思っております。

これから、今週も台湾からの団体さんが佐賀に見えて通訳者にと、また私どもの会社がやっているのですが、こうやって、コロナ解除に向けて、どんどん外国人がこの佐賀の地を笑顔で訪ねるような機会が増えているので、佐賀に住んでいる外国人達も、もっとこの佐賀は自信持って、自慢できるような佐賀市をつくるために、私たちも協力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

私どもも、こういうような国際化の時代になってくるとまあ、韓さんのような半分佐賀人のような方がいらっしやると、大変相手のことも分かるし、私どものところも、わかっただけということで大変これは助かってまいりました。やはり多文化共生の時代をうまく進めていくためには、お互いのことよく分かる人、こういう方の御意見御意見を聞いて多文化共生の事業を進めていかないといけないだろうと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○会長 どうもありがとうございました。○委員どうぞ。

○委員 私どちらかというと市役所の学校教育課長ですので、学校教育課よりで、現場を離れた小学校の教員ですので、小中学校のお世話をしている立場としましては、今年が5月1日付けでは30数名だった外国人にルールを持つ子どもたちも、今40名を超えておりまして、今年1年の中でも非常に増えている状況があります。

1番困ったことに、今、現在教員不足で、なかなか子どもたちのフォローをする者を見つけるのが大変で、ウクライナからの就学を来ている状況ですが、その子たちのフォローする教員を非常に見つけられずに困っている状況です。

そのように、なかなかこう、受入れの体制でいうと、家族でこられたときに、非常にまだちょっ

とフォローが出来ていないかなあということがありますので、県の教育委員会等、または国際課と、協力をしながら人材を見つけていくことが1番大切なことかな、とっておりますので、佐賀に来られて、子どもたちがすすくと、佐賀のいいところを見つけられるようにフォローできれば、というふうに思っているところです。

○会長 はい。ありがとうございました。

専門的な立場から貴重な御意見ありがとうございます。○○委員どうですか。

○委員 はい。

正直言うと何を言ったらいいかわかんないですけど、ちょっと留学生が観点とすると、執行委員がおっしゃったとおりで、もちろん日本人でも留学生と交流したいと思いますけど、逆にこっちも留学生も市民、ちょっとローカルの人たちでも、本当に何というか、いろいろ日本の文化とか学びたいですね。せっかく留学して、だからそのうちに色々身につけて、ちょっと今国へも持っていきたいなとは思っています。

それは踏まえているんですけど、今のところでは何かいろいろやっているみたいで、それはありがたいなと思っていますね。

自分では、4年前は余り、何ていうか、ローカルとは混ざってなくてそういうような、何ていうかな、文化でのイベントとかは余り参加する機会がなくて、できればもうちょっとこういうイベントを増やして欲しいなと思っています。

○事務局 はい、ありがとうございました。

やっぱりイベントに御参加いただくというのは、お互いの距離ぐっと縮めることになろうかと思っています。私のほうもコロナ前までは、留学生の方々と一緒になってイベントに参加してみませんかとか、例えばひなまつりのときに、着物を着てまちを歩いてみませんか、というようなことを何回かやったことございます。

コロナも大分緩んで参りましたから、こういうふうな、さっきりー委員おっしゃったようなことも含めて、できることはやっていきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○会長 SNSで拡散したのは、あなたたち若い力に期待したんです。最後に。

○副会長 はい。

○会長 まとめてください。

○副会長 ありがとうございます。

このような関係団体の方、関係者の方々が集まって本当に忙しい中、佐賀市がどう外国人の考え方と向き合っていくか、住みやすい、いいまちにしていくかっていうことを真剣に議論した、非常に有意義だったと思います。

私たち SPIRA の事を言わせていただきますと、私がお願いしました転入時に転入時にどれだけの情報を持ってもらうかっていうのが1番は入り口のところで、確実に情報が伝わる1番いい方法なので、まさに転入手続のときにさが文化共生センターのカードをぜひ必ず渡していただきたいというふうに思います。

ただ技能実習生の皆さん方などは代表者の方が10人分とか持ってきまので、ぜひその数を渡して必ず一人一人に渡してほしいというふうに言っていただくと。

何かあったときのSOSをしてもらえると、いうふうに思っていますが、是非これDとなってい

ますけど、また引き続き、そこら辺をよろしくお願ひしたいと思います。

それから、災害時緊急時、我々文化共生センターにライン登録しておいていただければ、双方向で情報が行き渡りますので、多言語行きかいますので、その登録も、していただけると、何かあったとき、何とかなる。9言語で、多言語情報を発信しますので、それもぜひ引き続きお願ひしてもらえればなというふうに思います。

それから先月、10月でしたかね。夜間中学の検討委員会が、実はあっておりまして私は委員で入っておりまして、一応この前で、取りあえず委員会終了いたしまして、県立の夜間中学を設立するというので決まりました。議会にも予算を上げております。

恐らく2年後か3年後にはスタートすると思います。可能性としては、もちろん佐賀市が1番可能性高いと思いますが、そのときに私が委員としてお願ひしていた、外国人の方の受入れ、これについても基本報告では受入れられる方向です。

どういうことかという、外国の学校、中学を卒業した人、多くが、いろんな関係で日本に来たときに、非常にそのあと高校に行きたい、行きたいと思っても、県内の高校に入れないという状況があります。日本語が出来ないという状況の中で、母国で中学校卒業した方でも、夜間中学校が出来た場合には、義務教育を受けることができるという方向で今、方向性が決まっておりますので、もし、海外から来て、せっかく日本人、日本長く居たいと、高校大学まで行って頑張りたいという人たちが実はいるのですが、非常に苦勞して、なかなか高校に入れなくて、3年も4年も、1人で通信制で勉強して、という子たちがいるのですが、そういう人たちが、夜間中学に入るようになるという朗報を、今我々することが出来たというふうに思います。

また中国からの帰国者の方も20数名おられます。こういった方々も、もう1回勉強したいという人たちがおられます。全国的には、夜間中学約8割が外国籍、外国にルーツのある方となっております。もちろん佐賀県の場合はそんな高い率にはならないと思いますが、いずれにしても、これも一つ、多文化共生の一助になるのかなというふうに思います。

いろんなことがあります、いろんなことをみんなで一生懸命考えて、すごいです、新しい道が開けていっているかなというふうに思いますので、引き続き皆さん頑張っていければな、というよろしくお願ひします。

○会長 どうもありがとうございました。

私だけ意見を言っていないというところで、皆さんからの視線が痛いです。

最後、もう段取りだと、55分ぐらいまでとなっております。まだちょっと時間ございます。私のほうから申し上げます。

今日こうやって皆さんと、三、四回にわたってお話したっていうのも昨日より今日、明日こういうふうにして佐賀市がどんどんよくなるということそれはよくなるということは今回のトピックに関しましては、共生という外国人の方々と一緒に暮らしていくと笑顔に満ちあふれた地域社会をつくり上げるっていうのが、1番の僕は目標だったと思う、目標だと思うんですね。

そのために、今日ここに上げていただいたのは手段とか戦略みたいなものなので、それをもう実現するためには、どういうことをしたら1番目標とするところに早くたどり着くという、それを皆さんと議論し合ったわけで、やはり一つ一つを見れば、いわゆるパズルのパーツにすぎないわけですが、やっぱりこういうことを一つ一つやらないことには、我々が1番望んでいた

笑顔、昨日より今日、今日よりあした、そしてみんなが笑顔で一緒に共生できる社会をつくり上げるというところにたどり着くかないのではないか。

そして今日も水田委員もおっしゃられましたし、あとは部長さんのほうからもコメント出たと思うのですよ。戦略って今日現在の、今日の今の話なので、やっぱり世界情勢が変わったり、経済が変わったりして、あるいはこうやってパンデミックが起きれば、もうあと半年後全く違うことが、出てくるかもしれません。

しかし、やはり1番たどり着くところは一緒なわけであって、それを目的に我々はこうやって、この2022年度の秋にこうやって会議に集ったわけなので、ぜひこの中から本当にいくつか具現化させていただいて、さらに我々が目指したゴールに一步でも早く近づけるような施策をぜひ市役所、佐賀市の方々に託すと、我々は全く出来ませんので、行政でございませんので、ぜひ、ここは私たちが、いろんな戦略手段を御提案させていただいたので、全部が全部いいとは思いませんし、全部が全部悪いと思いません。

しかしそこら辺はやっぱり、市のほう、経済的な面あるいは人的な面、あるいは地元でのニーズ、優先順位、多々あるかと思えますけれども、その中からぜひ一つでも、組んでいただいて2022年度の我々の要求というかそういうところがあつたらいいよね、というところをぜひ酌み取っていただいて、市政に生かしていただけたらなと思っております。

本当に今日このような、いろんな多様性に富んだ委員、多様性に富んだバックグラウンドを持った委員から、皆さんと一緒に集えたことは、とても私うれしく思いますし、若輩者で恐縮ですが、会長として、この会も何とか、市政に生かすというところで多少なりとも皆さんの力をいただけたというのは、ちょっとうれしく思います。

本当にどうもありがとうございました。

○事務協 会長そして各委員の皆様、本当にありがとうございました。

今日ここでいただいた提案、そしてここで新たにわかった課題を、今後の国際課の施策の中で生かしていき、会長おっしゃられた「みんなが笑顔で過ごせる佐賀市」になるように、私たちも、その一助となるよう考えていきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

では最後になりますが、総務部長より閉会の挨拶を申し上げます。

○総務部長（総務部長挨拶）

○事務局（閉会）